



決算説明会

2008年3月期第1四半期

2007年7月31日

ミネベア株式会社

1Q連結業績ハイライト

・タイパーツ高、一部の製品市場の弱さ等の悪影響にもかかわらず、
営業利益は増加

| (百万円) | 2007年3月期 | | 2008年3月期 | 前年同期比 | 前四半期比 |
|-----------------|----------|--------|----------|--------|--------|
| | 1Q | 4Q | 1Q | 伸び率 | 伸び率 |
| 売上高 | 80,201 | 83,692 | 81,766 | +2.0% | -2.3% |
| 営業利益 | 5,858 | 6,289 | 7,115 | +21.5% | +13.1% |
| 経常利益 | 4,713 | 5,401 | 6,252 | +32.7% | +15.8% |
| 税引前利益 | 5,205 | 3,334 | 5,476 | +5.2% | +64.2% |
| 当期純利益 | 3,288 | 1,185 | 3,133 | -4.7% | 2.64倍 |
| 一株当たり(当期)純利益(円) | 8.2 | 3.0 | 7.9 | -4.7% | 2.64倍 |

為替レートの変動 07/3期1Q → 08/3期1Q
 US\$ 114.71円 → 119.85円、ユーロ 143.49円 → 161.22円
 タイパーツ 3.00円 → 3.70円(3.44円)、人民元 14.31円 → 15.55円
 但し、カッコ内は、タイ中央銀行発表のオンショア・レート

2007年7月31日

1

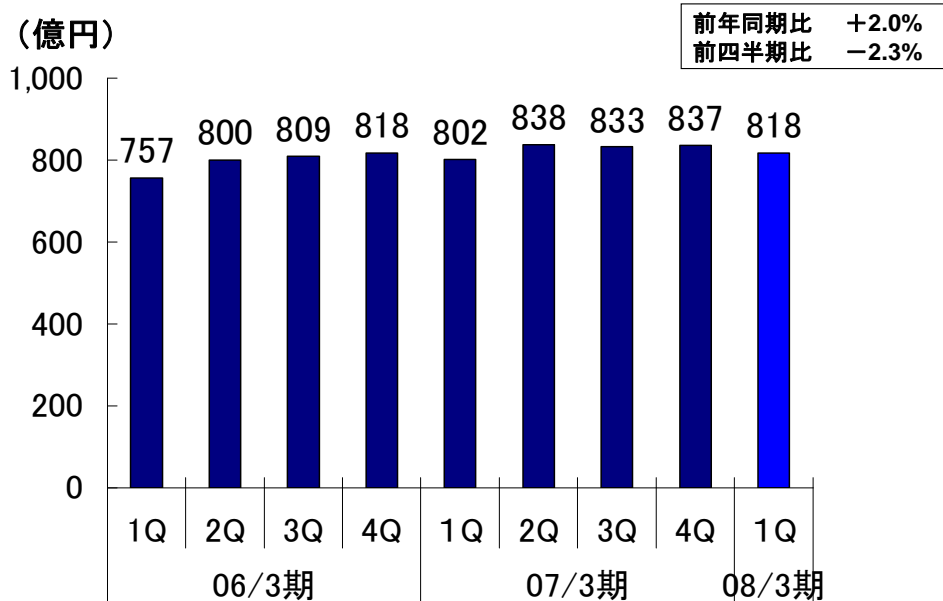
 Minebea

2008年3月期第1四半期の連結業績は、売上高817億6,600万円、営業利益71億1,500万円、純利益31億3,300万円となりました。前年同期に比べ、売上高は2.0%増で、営業利益は21.5%増と大幅に伸びました。一方、純利益は4.7%減と、若干減少しました。

前期の第4四半期に続きタイパーツ高が進み、また、PC市場やHDD市場の在庫調整があり、ピボットアッシー、HDDスピンドルモーター、ファンモーターなどの製品販売に悪影響がありましたが、堅調な需要に支えられたボールベアリングや航空機部品の伸びに加え、前年度からの全社的なコスト削減施策の効果が徐々に出始めたことなどにより営業利益は好調でありました。

四半期推移

売上高



2007年7月31日

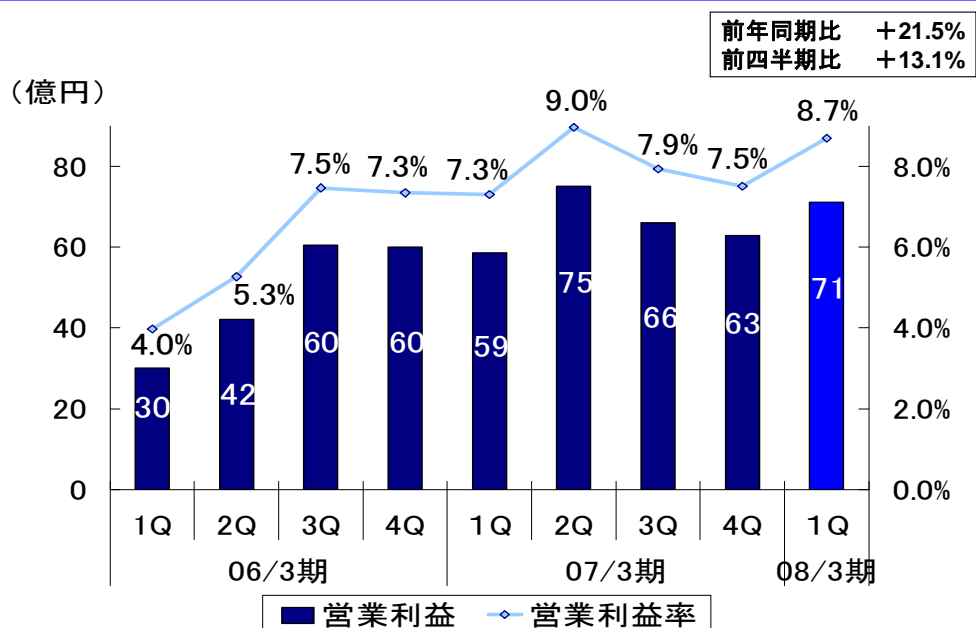
2

Minebea

第1四半期の売上高は、前期第4四半期比で2.3%の減少となりましたが、これは、主にキーボード事業における事業構造改革の完了による事業の縮小に加え、PC市場やHDD市場の在庫調整によるHDDスピンドルモーター、ピボットアッシーおよびファンモーターなどの売上減少があったためです。円安による為替の影響は、前年同期比で+47億円、前期第4四半期比で+8億円となりました。

四半期推移

営業利益



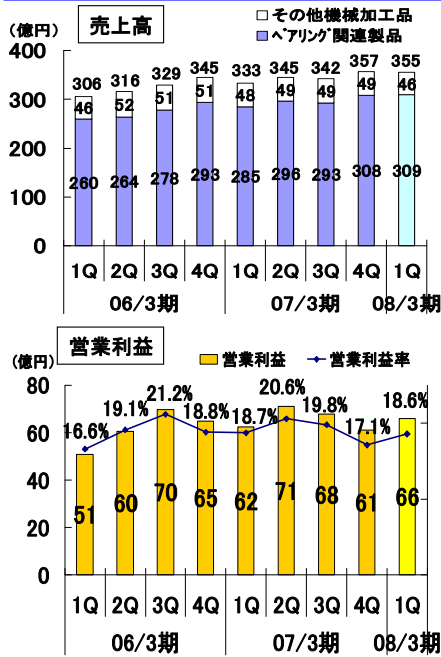
2007年7月31日

3

Minebea

第1四半期の営業利益は71億1,500万円と、前期第4四半期から8億2,600万円、13.1%の増加となりました。前期第2四半期に75億円の営業利益を記録して以降は、第3四半期、第4四半期と減少していましたが、今回その流れを変え、再び増加基調へ転じることが出来ました。第1四半期についても、前期の第3四半期、第4四半期と同じようにタイバーツ高を中心とした為替の悪影響があり、弊社の試算では、営業利益ベースで前期第4四半期比約5億円のマイナスの影響が出ていますが、それを乗り越えるだけの事業実態の改善が進んでいます。

セグメント別 機械加工品事業 売上高・営業利益



ミニチュア・小径ボールベアリング

売上高 前年同期比 +6.4%
前四半期比 +1.3%
堅調な需要をうけ、計画を上回る販売

ロッドエンド&スフェリカルベアリング

売上高 前年同期比 +9.2%
前四半期比 +0.0%

航空機向けに引き続き旺盛な需要

ピボットアッシー

売上高 前年同期比 +14.2%
前四半期比 -2.2%

HDD市場の在庫調整をうけて、前四半期比較で売上減少も、2Q以降は拡大見込み

2007年7月31日

4

Minebea

機械加工品事業セグメントの状況についてご説明いたします。

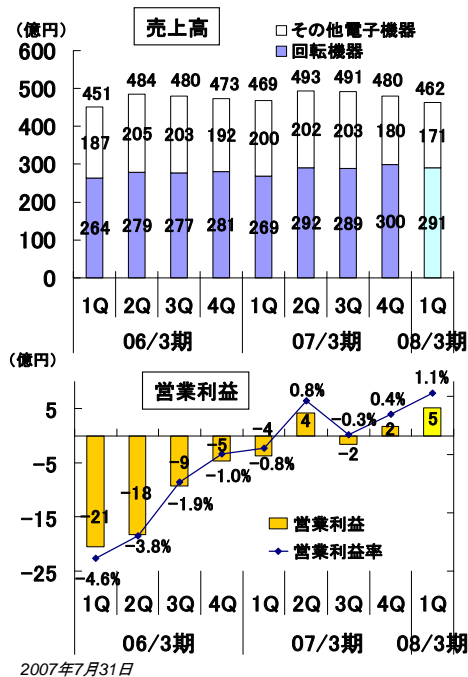
まず、ミニチュア・小径ボールベアリングにつきましては、売上高は前年同期比6.4%増、前期第4四半期比1.3%増となりました。社内使用と合わせた販売数量は月1億8,600万個と、前期第4四半期比で月500万個増加しました。これはピボットアッシー向けの社内使用が予想を下回りましたが、好調な世界経済に支えられ外部販売が好調だったためです。また、タイパーツ高への対応も進み、利益も増加しました。第2四半期以降も販売は好調に推移するものと見込んでいます。

ロッドエンド&スフェリカル・ベアリングは、引き続き世界的な航空機生産の好調を受けて、売上高は前年同期比9.2%増、前期第4四半期比では横這いとなり、利益も着実に増加しました。旺盛な需要に確実に応えるべく、生産能力の増大に努めるとともに、航空機メーカーの新規モデルへの受注活動を積極的に進めています。

HDDに使用されるピボットアッシーにつきましては、売上高は前年同期比14.2%増、前期第4四半期比2.2%減となりました。HDD市場における在庫調整を受け、ピボットアッシーの販売数量は月2,200万個と計画を大きく下回り、また、タイパーツ高もあり、採算が悪化しました。第2四半期以降については、在庫調整の終了に加え需要期に向け販売数量は大きく増加すると見込んでおります。

以上により、機械加工品事業セグメントの売上高は355億円と前期第4四半期比2億円減、営業利益は66億円と前期第4四半期比5億円増となり、営業利益率は18.6%と前期第4四半期比1.5ポイント上昇となりました。

セグメント別 電子機器事業 売上高・営業利益



2007年7月31日

5

情報モーター

売上高 前年同期比 +9.6%
前四半期比 -0.2%

コスト削減で、全般的に採算改善が続く

HDDスピンドルモーター

売上高 前年同期比 +2.3%
前四半期比 -9.8%

HDD市場の在庫調整で採算悪化
2.5インチモーターは徐々に販売増加

エレクトロデバイス

売上高 前年同期比 -2.7%
前四半期比 +1.3%

LEDバックライトは価格競争が厳しい

キーボード

売上高 前年同期比 -30.8%
前四半期比 -16.0%

事業構造改革完了で、採算大幅改善

スピーカー

売上高 前年同期比 -17.5%
前四半期比 -6.5%

アジア勢との競争激化で売上減少



電子機器事業セグメントの状況についてご説明いたします。

情報モーターでは、売上高は、前年同期比9.6%増、前期第4四半期比0.2%減となりました。PC市場の在庫調整などを受けファンモーターの利益は伸び悩みましたが、これまでの構造改革の効果が徐々に現れ、ステッピングモーター、振動モーター及びDCブラシ付きモーターの採算が改善しました。第2四半期以降は、再びファンモーターの成長が見込まれること、構造改革による採算改善が今後も期待できることなどから、着実な収益増加を見込んでいます。

HDDスピンドルモーターの売上高は、前期第4四半期比9.8%減となりました。これは、HDDメーカーによる在庫調整の結果、販売数量が月440万台と、前期第4四半期比で月60万台減少したためです。また、生産拠点であるタイのパーツ高の影響もあり、採算が悪化しました。第1四半期は赤字となりましたが、今後は単価の高い2.5インチHDD向けモーターの販売数量が着実に増加する見込みであり、引き続き通期黒字化を目標に、収益改善に取り組んでいます。

エレクトロデバイスでは、売上高は前年同期比2.7%減、前期第4四半期比1.3%増となりました。LEDバックライトは、価格競争が厳しい状況ですが、新製品の投入と売上数量の増加および原価低減により利益増加を図ります。

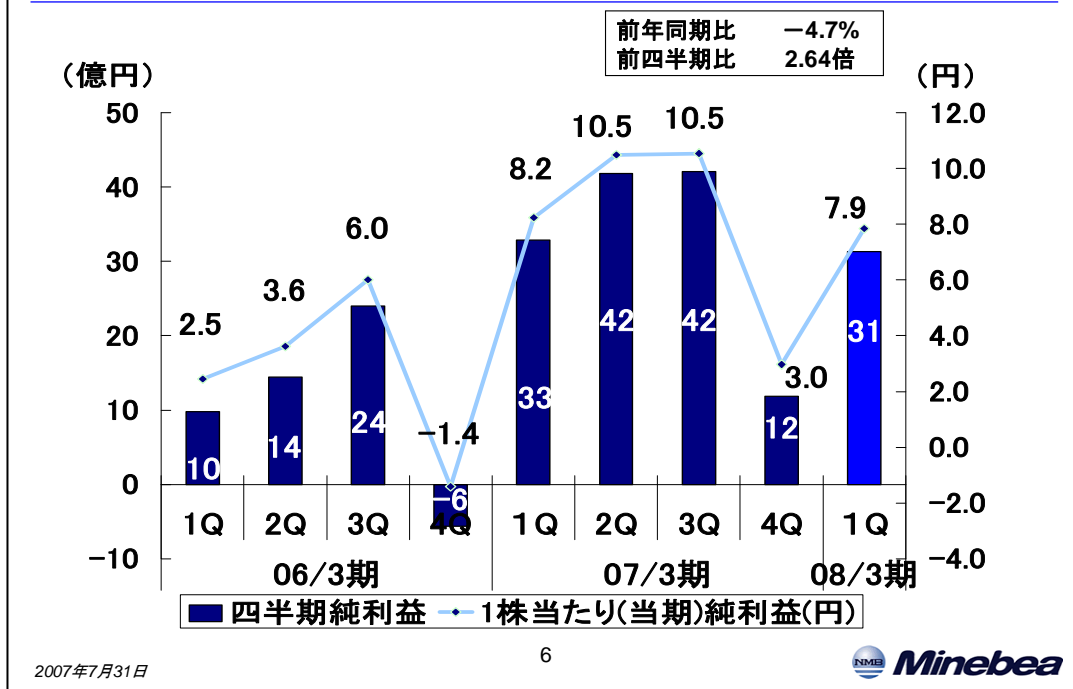
キーボードでは、事業構造改革を前期第4四半期中に完了し、高付加価値モデルへ絞込んだ結果、売上高は前期第4四半期比16.0%減となりましたが、平均販売単価の上昇および固定費の削減により採算が大きく改善し、黒字となりました。

スピーカーの売上は、前期第4四半期比6.5%減となりました。クリスマス商戦向けが終わった後の落ち込みが激しかった前期第4四半期を下回っており、厳しい状況が続いています。加えてタイパーツ高の影響もあり、赤字となりました。

以上により、電子機器事業セグメントの売上高は462億円と前期第4四半期比18億円減、営業利益は5億1,500万円と前期第4四半期比3億円増となり、計画より早いペースで収益改善が進展しています。

四半期推移

当期純利益

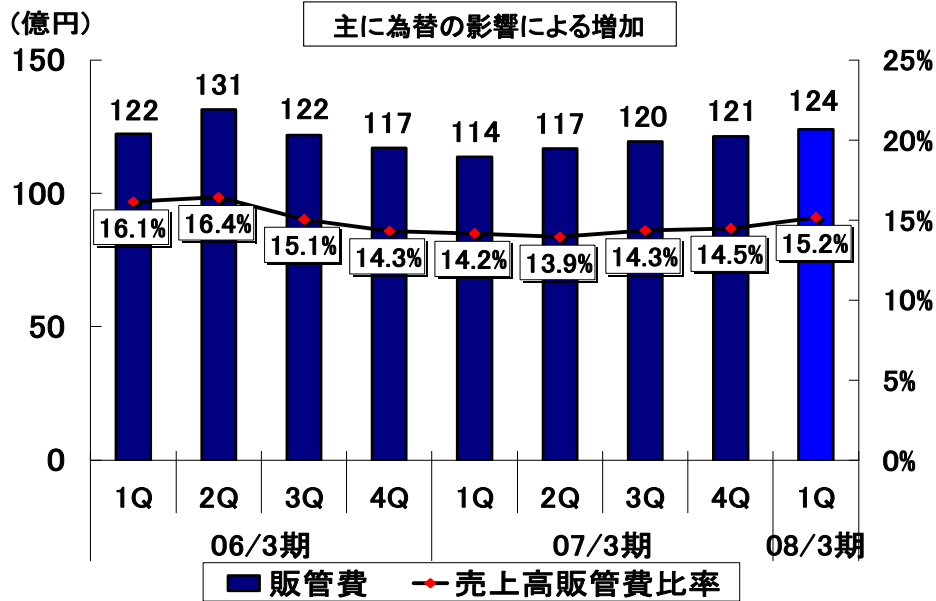


これは当期純利益の四半期ごとの推移です。

第1四半期は31億3,300万円、一株当たり7.9円となり、前年同期比では4.7%減少しましたが、前期第4四半期比では2.64倍と大幅増加となりました。

四半期推移

販管費



2007年7月31日

7

Minebea

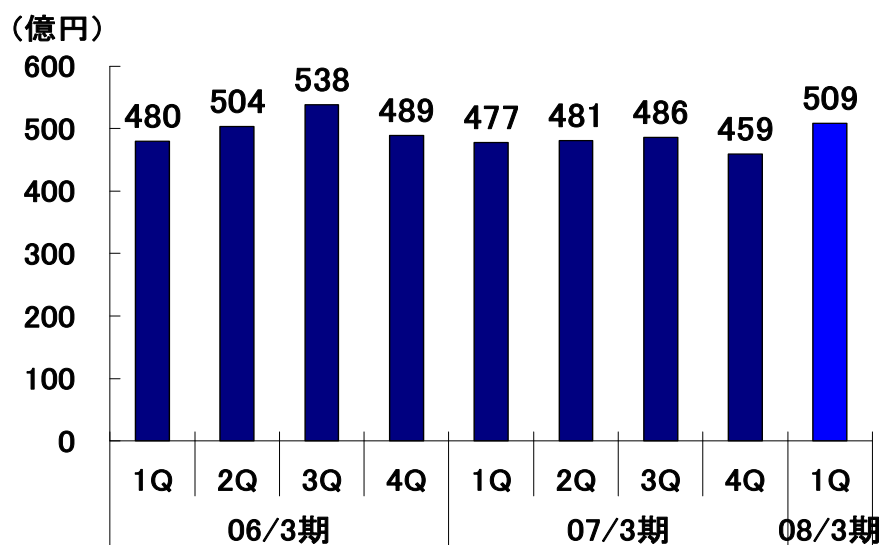
これは販管費の四半期ごとの推移です。

前期第4四半期と比べて3億円増加し、124億円となりました。第1四半期も引き続き、販管費および経費の抑制に努めてまいりましたが、結果として若干増加した主な理由は円安によるものです。

四半期推移

たな卸資産

為替の影響による増加分22億円はあるものの、2Q以降の需要期を見込んで在庫増加



2007年7月31日

8

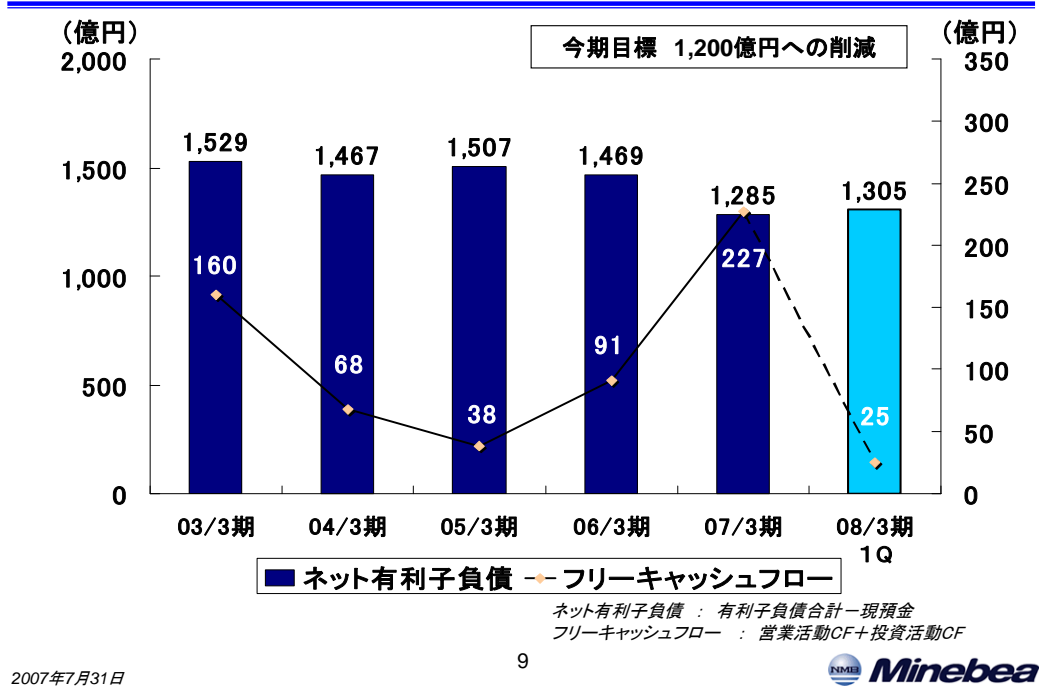
Minebea

これは、たな卸資産の四半期ごとの推移です。

前期第4四半期に比べ50億円と大幅に増加しました。原因のひとつは円安の影響で、これにより22億円増加しております。また、PC関連、HDD関連で第2四半期以降の需要期に販売の増加が見込まれており、それに備えて在庫を増加させている要因もあります。

年推移

ネット有利子負債



このグラフは有利子負債の年ごとの推移です。

第1四半期末における、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債は1,305億円と、前期末から20億円の増加となりました。これは、在庫積み増しと夏のボーナス支払いによってフリーキャッシュフローが少なかったことに加え、配当金の支払いがあったこと、円安による増加などが主な要因です。

今後も、今期の重要目標であるネット有利子負債残高1,200億円への削減に向けて、努力をつづけてまいります。

業績見通し

当初見込みは変更しません

| (百万円) | 2007年3月期 | 2008年3月期 | 2008年3月期業績見通し | | | |
|-----------------|----------|----------|---------------|----------------|---------|--------|
| | 通期 | 1Q | 上期 | 上期進捗率 1Q/上期 | 通期 | 通期伸び率 |
| 売上高 | 331,022 | 81,766 | 162,500 | 50% | 335,000 | +1.2% |
| 営業利益 | 26,265 | 7,115 | 14,000 | 51% | 30,000 | +14.2% |
| 経常利益 | 21,843 | 6,252 | 11,500 | 54% | 25,000 | +14.5% |
| 税引前利益 | 19,523 | 5,476 | 10,500 | 52% | 23,500 | +20.4% |
| 当期純利益 | 12,862 | 3,133 | 6,500 | 48% | 15,000 | +16.6% |
| 一株当たり(当期)純利益(円) | 32.2 | 7.9 | 16.3 | 48% | 37.6 | +16.6% |

為替レート 07/3期実績 → 08/3期想定
 USD 116.91円 → 117.00円、 タイバーツ 3.18円 → 3.25円
 ユーロ 149.75円 → 150.00円、 人民元 14.77円 → 15.00円

2007年7月31日

10



以上の結果を受け、今期の業績予想は変更しません。

現段階では、タイバーツ高と一部事業の収益悪化にもかかわらず、成長事業の着実な成長とタイバーツ高対応策としてのコスト削減の進展により、業績は順調に推移していると考えていますが、引き続き5月に発表した今期計画の達成に向け、尽力してまいります。

今後の主要なリスクとしては、引き続きタイバーツを中心とするアジア通貨高の動向、世界景気動向などを注視していきたいと考えています。

ミネベアにおける為替の影響

タイバーツなどアジア通貨の急激な上昇によるコスト上昇

・円安、タイバーツ高が進む

前期3Qから円安が加速、特にタイバーツは急上昇

・ドル、ユーロ高はプラス、アジア通貨高はマイナス

売上と費用の通貨構成(2007年3月期通期ベース)
 売上高:USDル=約55%、円=約30%、ユーロ=約10%
 費用:USDル=約40%、タイバーツ=約30%、
 円=約15%、人民元=約10%

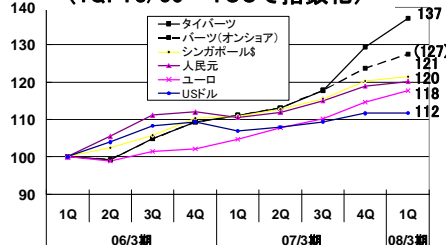
・対応策

1. コスト削減計画を積み増し
2. 内製比率を高める

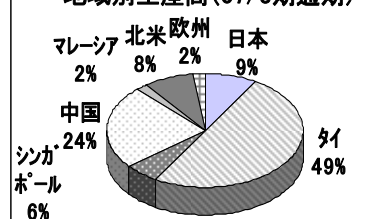
・タイバーツ高への対応策が効果を現し始めている

1Qは、為替の悪影響が前期4Qに比べ
 推計で約5億円あったものの、営業利益は増加

四半期平均対円為替レートの推移
 (1QFY3/06=100で指数化)



地域別生産高(07/3期通期)



2007年7月31日

11

Minebea

最後に、最近のタイバーツ高の急激な進展により、当社業績への影響が大きくなっており、ここでミネベアにおける為替の影響について、ご説明したいと思います。

まず為替の動きですが、右上のグラフにありますように、ここ2年間ではゆっくりとした円安が進んでおりましたが、前期第3四半期以降はそのペースが上がり、特にタイバーツは円に対して急上昇しております。但し、タイバーツについては、昨年12月のタイの短期資本流入規制以降、当社がタイで実際の商取引及び会計上で使うタイ国内のオンショアレートと、日本の連結会計上利用するオフショアレートに乖離が出ている点は注意が必要です。

こういった為替変動が当社に与える影響ですが、売上と費用の通貨構成を考えますと、費用に比較し売上に占める割合が大きいドルやユーロが円に対して上昇した場合は、利益に対してプラスの影響となります。一方、売上に比較し費用に占める割合が大きいタイバーツ、人民元、シンガポールドルといったアジア通貨が円に対して上昇した場合には、コストの上昇により利益にマイナスの影響が出ます。

これに対し、そういったアジア通貨高の環境下においても着実な利益成長を図っていくため、当社が現在最も力を入れているのが、コスト削減の徹底であり、コスト削減計画の積み増しであります。また、そういったコスト削減の効果を高めるため、内製比率を高めていく取り組みも行っています。一方で、為替ヘッジについては、主にヘッジコストや流動性の問題から、債権債務の為替ヘッジを除いて当面実施する予定はありません。

本日発表した第1四半期決算におきましては、そういった昨年来のコスト削減徹底の効果が徐々に現れ始めており、為替の悪影響が前期第4四半期比で約5億円あったと推計されるにも関わらず、営業利益は71億円と前期第4四半期比で8億円増加しました。今後とも着実な利益成長を実現するための努力を続けてまいります。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。